



市辺地区まちづくり協議会広報誌

いちのべ

万葉のまち 市辺

第39号

平成29年4月



市辺幼稚園・平田幼稚園・八日市すみれ保育園が
統合されて新しく開園する「市立あかね幼稚園」

発行:市辺地区まちづくり協議会 / 東近江市市辺町2391
市辺コミュニティセンター内 TEL&FAX 050-5802-3392
ホームページ 万葉のまち市辺 <http://www.ichinobe.com/>

万葉のまち市辺 検索

市辺地区まちづくり協議会 平成28年度臨時総会

3月1日（水）午後7時30分より、市辺コミュニティセンターに於いて平成28年度市辺地区まちづくり協議会臨時総会が83名（内委任状37名）の出席者で開催されました。

臨時総会は、小菅光生西市辺自治会長を議長に選出し、2つの議案を審議し、両議案ともに賛成多数で可決されました。

第1号議案「平成29年度規約改定について」事務局より規約全文の現行と改定案の対比表を示して提案され可決されました。（左下段「規約改正」参照）



第2号議案「平成29年度役員の選出について」は、中村善治郎糠塚町自治会長（平成28年度まち協副会長）から評議委員会の推薦者が提案され、賛成多数で決定しました。

提案された各役員は、会長に須田智廣氏、副会長に平尾彌一氏と榎木貞夫氏、事務局長に高頭勇次氏、コミュニティセンター業務主任者（館長）に木田行男氏、会計に今井肇氏の6名で、副会長1名（自治連枠）と会計監査2名（自治連枠）は同連合会の役員会を経て確定するものです。

なお、前記の自治連選出の各役員と木田行男氏が新任で、他の5氏は前期に引き続き再任されました。



まちのわコンテスト 優秀賞を受賞

3月23日（日）東近江市パブリックアクセス推進協議会とNPO法人まちづくりネット東近江の主催で、「まちのわコンテスト表彰式」が東近江市役所新館3階で行われました。これは、スマイルネットで放送された市民投稿番組で10作品から、最優秀には医療懇話会の「命のバトン」が選ばれ、優秀賞に市辺地区まちづくり協議会広報部制作の「こども夏まつり」が表彰を受けました。

この作品は7月に市辺コミュニティセンター主催で行われた行事の模様をビデオ作品にしたもので、大勢の浴衣姿の子ども達が集まり中学生がスタッフになり、ビンゴゲームや、サッカーゲーム等色々な催しがありました。この作品は市辺地区まちづくり協議会のホームページ「万葉のまち市辺」にアップするのでご覧ください。

もう一つの優秀賞は「NPOこもれ日小田莉家」の作品でした。Facebookページ「こもれ日の小田莉家」が掲載されています。



まちづくり協議会 新年度正副会長メッセージ

皆さんこんにちは

平素は市辺地区まちづくり協議会の活動にご支援ご協力をいただき心からお礼申し上げます。

昨年度は事業の目標でありました「まちづくり計画書」を見直すためにプロジェクト委員会を設立し、市の地域担当職員にも加わっていただき、精力的に討議を重ね、運営委員会の承認を経て、このほど正式に「まちづくり計画書・改定版」として策定しました。これは今年度以降のまちづくり協議会の活動指標になるものです。

まちづくり協議会の活動にこれまで以上の多くの皆さんの参加をお待ちしています。

市辺地区まちづくり協議会
会長 須田 智廣

今年度からまちづくり計画は二期目に入りました。

住みよい、安全・安心の市辺地区をめざして、力を合わせ、頑張りましょう。

副会長 平尾 彌一

“減災のまちづくりを目指して”

いつ起こってもおかしくない地震、私たちにはこれを防ぐことは出来ません。しかし、地震被害から身を守ることは出来るはずです。

自分の命は自分が守る自助。地域ではお互いが助け合う共助の考え方を共に勉強したいと思っています。

副会長 榎木 貞夫

※自治連合会から就任される、もう1人の副会長については、5月に開催される定期総会で決まります。

規約改定

平成29年3月1日の臨時総会で規約改定が承認されました。

◇ 改定理由

今後10年先を見据えたまちづくり計画書の改定版がこの度発刊されました。

これに合わせ、運営体制の強化充実を図るために規約の見直しが行われました。

◇ 改定ポイント

- ①役員の任期が1年から2年になりました。
- ②運営委員会の構成メンバーに自治会長全員が入りました。
- ③まちづくり委員はまちづくり計画書（改定版）に基づき活動することになりました。

古地図から探る郷土の歴史

2月11日（土）松井善和先生（元長浜高校校長）を講師に迎え26人の参加で「市辺歴史発見塾」「歴史セミナーNo3『古地図から探る郷土の歴史』」を開催しました。先生から配られた明治時代、大正時代、平成の地図3枚を見比べながら古地図にまつわる話を聞きました。

日本地図が出来たのは明治29年で、それまでは絵図でした。日本の地図で「北海道」という地名がありますが、これは東海道、中山道、東山道、などの名残です。

県名と県庁所在地が同名のところと、そうでない所があります。例えば、和歌山県と奈良県は同じで、滋賀県と三重県は違います。これは明治維新の前の戦争で朝敵（徳川幕府軍）には廃藩置県の時に、県名と県庁所在地の名前が異なっています。また県庁所在地も県の中央にありません。明治政府がわざとそのように決めたそうです。そのような見方で地図を見ると面白いものです。

3枚の地図の違いを見て、郷土の歴史をひも解いてみるのも楽しくなります。明治の初めには、陸軍八日市飛行場があり、湖南鉄道がありました。

飛行場まで線路があり「川合寺口」という駅がありました。「古地図と現在地図と見比べ、より深く郷土の歴史を探ってみると面白い」と言う、話を聞きました。

参加者からは「興味深く、わかりやすい話だ」と好評でした。



市辺周辺の古地図
(新八日市から御園に湖南鉄道)

だれでも救える 身近な命

2月25日（土）午前9時～12時、市辺地区まちづくり協議会と減災・安全安心部主催で東近江消防本部において、

普通救命（AED）講習を18人が受講しました。今回は東市辺町自主防災組織から13人が参加しました。

消防署員の指導で 救命処置の手順に沿って、胸骨圧迫、人工呼吸、「AED」の操作を分かり易く実施訓練を行なって頂きました。その後、気道異物の除去、止血法等の講習を受け、講習終了後、普通救命講習修了証の交付を受けました。

救急車が到着するまでの10分程が生死を分けます。そんな時に居合わせた人が救命処置を行うと、命の助かる可能性が高くなるということです。

今後も開催する予定であり、多数の方々に体験して頂き、助かる命を救うまちづくりをめざしましょう。



市辺地区まちづくり計画書(改定版)完成

市辺地区まちづくり協議会は、10年の節目をむかえました。地区まちづくりの基本となる計画は平成22年3月に策定され、自治会、各団体と協力、連携をしながら、まちづくり活動を展開してきました。

一定の成果を上げ、平成24年10月に市辺コミュニティセンターは指定管理団体の認定を受けました。その後「東近江市協働のまちづくり条例」が施行され、まちづくり協議会の位置づけが明確に定められました。更なる期待度が高まって来たと同時に、地震災害予測、高齢化に伴う課題、人権尊重等、社会情勢の変化が今回見直し改定の背景にあります。この「まちづくり計画書（改訂版）」は、新年度に全戸配布の予定です。

このまちにまちづくりへい
市辺地区まちづくり計画書
2017年改定版



自然・環境部 見学研修会 関西リサイクルセンター

2月7日（火）、家電製品のリサイクル現場を見学する機会を得ました。ここで感じたことは、まず、大まかな仕事は機械で出来ても大切な部分は人間が手をかけること。次に、家電製品は役目が終わった後でもまだ役に立つものを残しているという事でした。



後役の部分は、現役を退いた私達にもあてはまるのではないかとつくづく感じました。

防火訓練と歩こう会

3月4日（土）天候にも恵まれ、市辺コミセンと体協主催で恒例の防火訓練、歩こう会が開催されました。東近江消防署員による「わが家の火災予防」の話と水消火器による初期消火の実体験が行われました。



午前10時30分からは、歩こう会がスタートし三津屋、西市辺、布施公園経由、布引スタジアムに到着しました。市辺コミセン職員が準備した、豚汁とおにぎりで、美味しい昼食をいただきました。



午後、防災機器備蓄倉庫見学後、市辺コミセンへ向け出発し2時頃10キロコースを全員がゴールしました。お疲れさまでした。

減災・安全安心部

部会だより

安全安心部は2月25日（土）に東近江消防本部にて普通救命（AED）講習会を開催しました。各地区より18人の参加で、救急救命士の方に心肺蘇生やAEDの取り扱いについて実技指導を受けました。

万が一事故に遭遇した場合、こうした講習が少しでも役立つことを期待しています。今年度も開催を予定していますので多くの方々の参加をお願いします。

また、昨年度より着手した市辺地区の防災マップ作成については、各自治会より提出された水害危険個所及び交通危険個所の防災マップへの書き込みを行いました。作成した防災マップは今年度に各自治会宛てに配布する予定です。各地区の防災活動に少しでも役立てて頂ければ幸甚です。

健康・福祉部

前年度は、パンに使われている添加物の恐ろしさや認知症等生活習慣病の予防、改善には食が大きく左右していることをお伝え出来たかと思います。

最近「身体を冷やさない事が免疫力を高める」と言われており、健康寿命を伸ばすことにも繋がります。

そこで今年度の前半は、身体の冷えを改善するマクロビオティック料理法を講義で、その極意をお話します。

後半は、おもてなし料理の第二弾として、生麩作りを予定していますので、奮ってのご参加をお待ちしています。

地域活力部

本年度の活動目標は、昨年と同様にムラサキの普及および万葉の森に植栽して成長の手助けをしたいと思っています。

近年ムラサキへの関心が高まり、多くの人の心をつかんでいる様に感じています。しかし、栽培の仕方が難しく、残念ながら真夏あたりで枯れるのが現状です。

今年は、いかにして晩秋まで成育させることができるか研究ていきたいと思っています。

自然・環境部

主な活動は、コンポストの良さを地域に広めることです。人々が良さを知り、利用されることで、生ごみは良質の堆肥となり、それを施された有機作物を食した人達が健康になるのです。また、生ごみを可燃物に出さないことにより重量が減り、処理量や、温暖化の原因であるCO₂も削減できて、市民の大切な税金の節約にもつながるのです。

活動の意味を形にするため、まちづくり農園で、さつまいもを栽培し、地域の保育園や幼稚園の子ども達に、いも堀り体験をしてもらい環境や健康の大切さを説明しています。

す。野菜を育てるため何回も手入れや収穫作業をしますが、モットーは「無理なく活動を続けること」「都合がつけば参加協力する」という気楽な部会です。

このように参加したら楽しくて、辞められなくなるのでそのつもりで・・・。

子ども健全育成部

平成29年度が始まり、子ども健全育成部も「さて今年は、何をどうするべきか」と、いう時期がきました。

子ども達が、すくすく伸びていく為に、自然にふれて、季節の移り変わりを、また生き物の営みを肌で感じてもらえば、それも良いかな、そして年末には、「皆で楽しくお餅を、食べよう」なんて事もできれば、楽しそうだなと思っております。

新しいメンバーも加えて、皆で相談し、進めていきたいと存じます。きっと子ども達に、喜んでもらえる計画をと思っております。

歴史・文化部

歴史文化部の平成29年度の計画は、「市辺れきし発見塾5回シリーズ」の開催を予定しています。

①5月「れきしセミナーNo.1」

テーマ「近江の昔の暮らし」の予定。

講師に民俗学の先生を現在交渉中です。

②8月「市辺歴史こども塾」

DVD「布施のため池物語」を映写し説明会をする予定。小学生高学年を対象に考えています。

③9月DVD「市辺れきし発見」の完成お披露目会。

完成試写会、関係者によるディスカッション、関連クイズなどを行います。

④10月～11月「れきしセミナーNo.2」

テーマ「『御代参街道』について」を予定。

⑤2月「れきしセミナーNo.3」

テーマ「中世から近世の近江の歴史」予定。

今後、計画を進めていく過程で変更がありますが、その都度お知らせしますので、多数の参加をお願いします。

編集後記

連日、テレビや新聞の紙面を飾っていた「森友学園」問題が、前理事長の証人喚問で、さらにヒートアップし、今後の動向に注目が集まっているところです。

ここ市辺では、市辺幼稚園（表紙右下）、八日市すみれ保育園（同左下）、平田幼稚園の3つの園が統合して船岡中学校横に「あかね幼稚園」（同上）として、この4月から新しく開園されることになりました。新しい学園で、すくすくと健やかに育っていかれることを近隣の住民として見守って行きたいと思っています。